

小論文とはなんだろう

「大学入試のありかたを見直そう」という議論の中で、ペーパーテストへの偏りをあらため、調査書や面接、そして小論文を重視しよう」ということがずっと言われ続けています。

これからの社会に必要な人材として、自分以外の他者との協同作業を有効に行える資質の重要性が叫ばれており、その資質を養成したり、どこまで備わっているかを判定したりするには、小論文を書かせるのが効果的だと考えられているからです。

そこで最初に、小論文とは何かについて考えてみましょう。

小論文を説明するときによく取り上げられるのは、作文との違いは何か、ということなのです。

1 作文と小論文の違い

みなさんは中学生のときに、『修学旅行の思い出』とか『将来の夢』といったタイトルで作文を書いたことがあると思います。ここでは「友だちと夜おそくまで部屋の中で語り合うことができて楽しかった」とか、「大学を卒業したら宇宙飛行士になって、月面を歩いてみたい」などと書いていたかもしれません。

そこから考えると、「作文」は次のような文章といえるでしょう。

Point

作文——感じたり思ったりしたことを、そのまま書きあらわした文章

〈自分自身にかかわることがらや自分の周囲で起きた出来事などについて、印象に残るような表現を用いて書く〉というのが、作文の基本的なスタイルだったはずなのです。

それに対して「小論文」は、「小」なりといえども「論文」です。「論文」とは、「論理的文章」「筋道だった文章」のことをいい、「論理」とは〈議論や思考を進める道筋・論法〉のことです。

もちろん、専門家の学術論文のような長大な論文を書くわけではありませんが、「問われていること」を意識し、その「問い」を少しずつ掘り下げながら自分の主張（結論）を導くという基本的な態度は、どちらにも共通するものです。

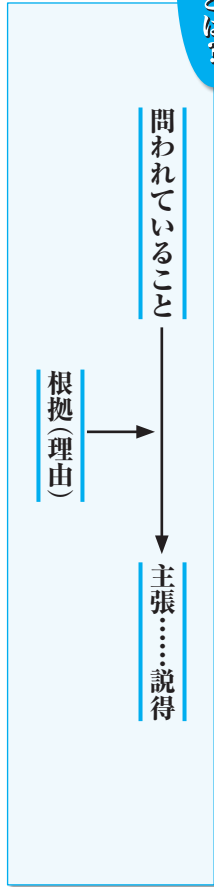
つまり、「小論文」は次のような文章といえます。

Point

小論文——問われていることに対して、「私はこのように考える」と主張し、さらに、「なぜそのように考えるのか」という理由（根拠）を説明することによって、読み手を説得することを目的とした文章

説明が少し長くなりましたので、これを簡単な図にしてみましょう。

小論文とは？



ここには、次の四つの要素が示されていることに注意してください。

Point

小論文の四つの要素＝「問い（論点）」「主張（主題）」「根拠（理由）」「説得」

本テキストでは、小論文の課題の中で「問われていること」を「**論点**」と呼びます。

その問いに沿って導き出された「何をどう考えるのか」という具体的な論述のテーマを「**主題**」と呼び、この「**主題**」が他者に向かって発せられたものを「**主張**」と呼びます。

たとえば、「将来の大学はどうあるべきか」「人類はどのような方向に進むべきか」といった問いが「**論点**」に当たります。この、「人類はどのような方向に進むべきか」という論点からは、「人口爆発への懸念」「食料不足への対策」「核管理の重要性」といったさまざまな「**主題**」を導くことができ、その主題を相手に対して「核技術の国家単位での管理は禁止し、全人類の共同管理下におくべきである」などと訴えれば、「**主張**」となります。

また、「論証に必要な根拠（理由）」を「**論拠**」といいますので、以下では原則的にこの用語を使います。

「**論点・主張・論拠・説得**」の四つはいずれも大切です。小論文を書くときには常に意識するようにしましょう。

2 小論文の目的は説得すること

小論文の最終的な目的は、読み手を説得することです。

ただし、ここでいう「説得」とは、「読み手を説きふせて、書き手の主張にしたがってもらう」ことではありません。

もちろん、それくらいたくましい主張をうちだせれば素晴らしいのですが、ふつうはなかなかそう簡単にはいきません。なぜなら、読み手にも自分なりの考えがあるからです。原稿用紙にしてわずか二枚くらいの文章で読み手の考えを変えてしまおうのは、非常に難しいことです。

小論文という「説得」とは、次のようにとらえるべきものです。

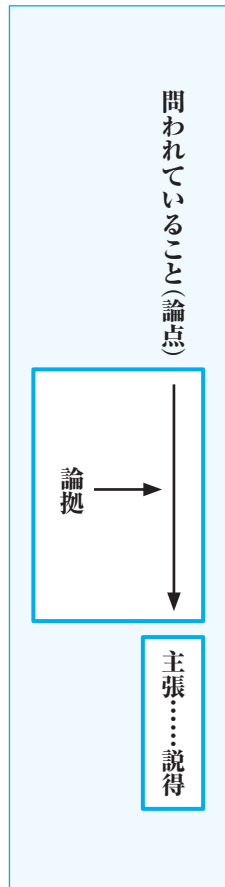
Point

説得——書き手の示す考え方（主張とその論拠）が十分にたつと、読み手に認めてもらうこと

そもそも小論文で問われるのは、私たちの社会の中で解決の方法がなかなか見あたらなかったり、人によってさまざまに主張が分かれたりしてしまうような難しい問題であるのが普通です。

したがって、小論文を出題する側は、書き手に対して、そうした問題に対する〈正しい解答〉を期待しているわけではありません。

もちろん主張の中身は大切ですが、それと同時に、小論文では主張を導くまでのプロセスが非常に大切であるということを知っておきましょう。



線で囲んだ部分に注目しましょう。小論文で大切なのは、**どれほど説得力のある論拠をもって主張を示すことができるか**、ということなのです。

どんなに立派なことを主張しても、その主張をうちだすまでの途中の過程が不十分であれば、その答案には説得力がない（つまり、高い評価にはつながらない）ことになります。

小論文と向きあう際は、「自分の思うとおりに書けばよい」といった、これまでの作文を書くときのような態度ではなく、「自分の主張を認めてもらおう」という強い意欲をもって取り組むようにしましょう。

要点 【小論文】

作文と小論文の違い

テーマを学ぶ意義

■小論文とは何かを考える

『小論文 サポート』でも述べたように、「小論文」とは、作文や日記・手紙などではなく、「小さな論文」、つまり論理的な（筋道の立った）文章のことだ。だが、そのように説明されても、すぐにはピンとこないだろう。

そこで、小論文をマスターする第一歩を踏み出す今回は、「作文と小論文とはどう違うのか」を体感してもらうことにした。

この「要点」を読み終えたら、これまで自分が書いてきた作文や日記・手紙などを読み直して、小論文との違いを確認してほしい。そこからさらに、「もし小論文に直すならどこをどうすればよいのか」を考えることによって、どのように書けば小論文になるのかを理解できるはずである。

到達目標

作文や日記・手紙とは異なる小論文のスタイルをしっかり把握し、小論文の条件を満たしているか、チェックしながら書けるようになる。

テーマ学習

例題

あいさつの大切さについて、あなたの考えを四〇〇字以内で述べなさい。

まずは問題の要求を確認しておこう。求められているのが「あいさつの大切さ」なのだから、あいさつがなぜ大切なのか、どういう点が大切なのかを中心にして書くべきだ。もし、「あいさつは大切か」という問いだったなら、あいさつの是非（大切か大切でないか）について、自分の態度を明らかにしなければならない。

このように、同じようなテーマであっても問題の要求によって答えるべき内容は異なる、という点に注意しておこう。

ステップ1 感想から思考へ

小論文はほかの教科と違い、知識が問われるのではなく、自分が考えたこと、主張したいことの内容と質が問われる。

そのことを解説する手始めに、一昔前の国語の入試問題を取り上げてみよう。それは、《かじりかけのリングの写真を見て、感じたこと、考えたことを書きなさい》という問題である。

学習時間
30分

※例題に取り
組む場合は
60分

ある生徒はこんな書き出しで解答を始めた。

かじりかけのリンゴがある。だれが食べたのだろう。少し酸っぱかったのか、半分も食べないで残している。皮はむかれていないから、はじめから丸ごと食べようとしたわけではなかったのかもしれない。ちよつとした気まぐれ。

この文章は、写真に撮られたリンゴの説明に少しの想像を交えたもので、意見は含まれていない。この答えは次のように続く。

そういえば、私の生活の中にも、これに似たものがある。ちよつと読んだだけでやめた本、ちよつと着ただけで飽きてしまった服、私の部屋はそうしたガラクタであふれている。

「かじりかけのリンゴ」から連想されるものが、自分の身近な生活にもあるという「気づき」から、類似するものが列挙されているが、これでもまだ感想文レベルだ。テーマに対する感想にとどまっています、**でも小論文とはいえない**。しかし、その後には、

だが、こうしたガラクタは、「本当に大切なもの」を見つけるための試行錯誤の跡なのかもしれない。それは「本当に大切なもの」との出会いの難しさを示している。途中で放棄したのは、それが私にとって「本当に大切なもの」ではなかったからだ。

と述べられ、傍線部には生徒独自の思考が感じとれる。

一般的には「かじりかけのリンゴ」も生活のガラクタもマイナスの評価を与えてしまいがちで、「私はこうしたガラクタを整理して快適な生活を過ごしたい」などという常識的な主張に終わってしまう。

それに対してこの答えは、『本当に大切なもの』を見つけるための試行錯誤の跡』というようにガラクタにプラスの評価を与えている。

このように、自分の生活を見渡すと、自分の思考が動き始め、自分の意見が生まれてくる。そこに小論文の原点がある。

小論文では、与えられたテーマについて思いついた「感想」をただ書くのではなく、そこから「問い」を見つけ出し、それに対する「意見」を述べる必要があるのである。

公式

小論文は、「テーマ」から「問い」を見つけ出し、それに対する「意見」を述べるものである。



ステップ2 生活体験から問題点を探る

次に例題に即して、いま解説したことをもう少し丁寧に考えて「問い」を探してみよう。

まず「あいさつ」は我々の生活に身近なテーマだから、あいさつをめぐる具体的な場面はいくらでも思い浮かぶはずだ。

そこで、日ごろから気になっている点をメモに書き留めてみるとよい。たとえば、次のように思い浮かんだことを書いてみる。

私が住むマンションのエレベーターで、ほとんどの小学生があいさつをしないことが気になる。高校生の私にはおろか、大人の方にもしないようだ。私が小学生のときには、学校でも家でもあいさつするように言われていた。今は知らない人と話さないように言われているのだろうか。

この場合、自分の小学校の頃にくらべ、いまの小学生はあいさつをしなくなったという「気づき」がポイントとなる。こうした問題意識があれば、傍線部のような「問い」を導くことができ、小論文を書くスタートラインとしては十分だろう。

ただし、これはあくまで「スタートライン」なので、このレベルの問題意識のまま、

私は、相手に失礼にならないように、まずは自分から声を掛けていこうと思う。

といった個人的な意見で終わらせてしまったのでは、単なる感想にとどまってしまう。

そこで、自分がなぜこのような思いを抱くことになったのか、その原因を深く掘り下げていく。

その場合、構想を練る段階で、

具体的なテーマ ↓ 抽象的な考察

という方向で対処するとよい。

たとえば「あいさつ」であれば、

・ 具体的なテーマ

自分の周囲の人たちのあいさつの様子

←

・ 抽象的な考察

「あいさつ」に映し出される、現代日本の文化や社会のあり方とはどのようなものか

のように思考を働かせれば、

なぜ現代日本において「あいさつ」が軽視されているのか。

といった問いを引き出すことができる。

ステップ2 を参考に、あなたの生活体験の中から、「あいさつ」に結びつく社会的問題（問い）をいくつか挙げてみよう。

なお、ここまでの段階では、できるだけ多くの事例を挙げるとよいが、実際に小論文として書く際には、あれもこれもと盛り込むと、考察にあたる字数が足りなくなり、内容の薄いものになりかねない。むしろ、一つの事例にしぼって書いたほうが説得力のある小論文につながりやすいということ覚えておこう。

ステップ3

社会的問題につなげて、意見の根拠(理由)とする

（あいさつから、日本の文化や社会のあり方にまで考えを拡張する）とは、具体的にどうすることか。少し問題を変えて、「高齢運転者の事故について」というテーマで考えてみよう。

最近、高齢運転者の事故が多発している。私もひとごととは思えない。ある時、足の力が弱くなっていた祖父が、ブレーキをうまく踏めず、ガードレールにぶつかったのだ。幸いけがはなかったが、今後は祖父の運転に注意を払いたい。

この文章は、自分の周囲に起きた出来事から始めているが、この段階ではそれについての感想にとどまっている。

これに対して、

最近、高齢運転者の事故が多発している。私の祖父も以前小さな事故を起こしたが、その原因は、足の力が弱くなってブレーキがうまく踏めなかったことにあった。高齢運転者の事故の背景には、加齢で運転が難しくなっているにも関わらず、生活のためには運転をせざるを得ないという現実がある。現代の日本はすでに高齢社会に突入しているので、高齢運転者の事故について、単に事故防止策を考えるだけではなく、高齢者が現代社会の中でどう生きていくか、高齢者と私たちがどう共生していくか、という観点から広く考えていくべきだろう。

というように、自分の体験とそれについての感想を、人々が共有できるような社会的問題（傍線部）につなげ、それを議論の根拠（論拠）にして、意見を相手に訴える主張（波線部）の形で述べると、単なる感想文ではない小論文になる。「論拠」とは自分の主張の正当性を支える骨格・骨組みのことだ。

それでは、これを「あいさつ」の問題に当てはめて考えるとどうなるだろうか。

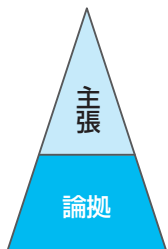
現代では、地域に住む人々のきずなが失われているが、大災害などが起きたとき、人々は地域単位で集まる必要があるに違いない。とすれば、普段からあいさつを心がけておけば、いざというときに、スムーズに協力し合えるだろう。

傍線部が現代社会の問題にかかわる内容である。

このように、自分の生活から視野を広げ、日本の社会全体にアンテナを張りめぐらせて、主張の論拠にするとよい。



小論文の「主張」には、それを支える「論拠」が必要である。



ワーク

ステップ3を参考に、ステップ2のワークで取り上げた「問い」を一つ選び、それに対する「主張」と「論拠」を挙げてみよう。

- 主張
- 論拠

ステップ4

主張の方向を決める

ここまで、小論文には「問い」とそれに対する「主張」、そして「論拠」が必要であると述べてきた。もちろん、これらはばらばらであっては小論文として成り立たないので、最後にしっかりと方向付けを行おう。

ある程度、あいさつの大切さを裏づける論拠が見出されたなら、そこから自分の意見を導き、主張としてまとめることになるが、結論を

あいさつをしない人間は平気で公衆道徳を破ったりする。こうした様子を子供たちがどう思うか、大人は考えてもらいたい。

などとしてしまったのでは、自分の意見の是非を読み手に任せただけで、これでは主張にならない。

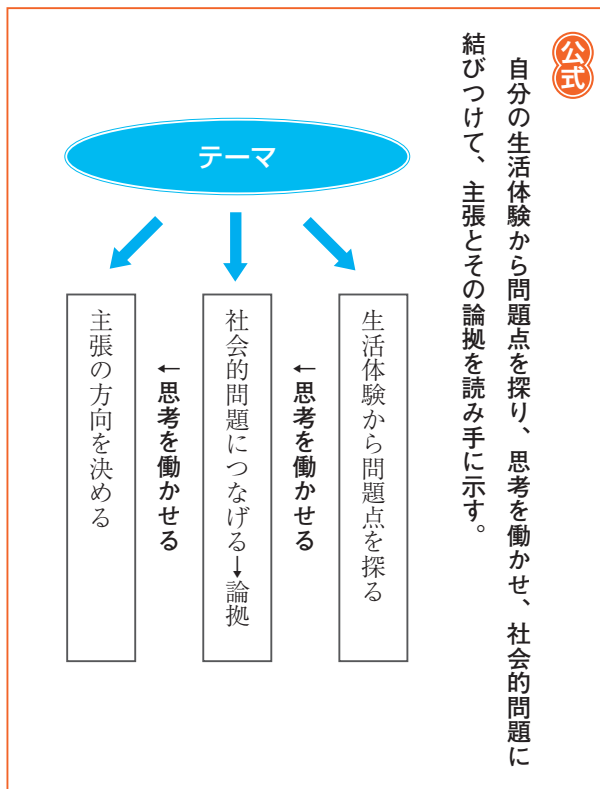
求められているのは「自分の主張」なのだから、たとえば、

あいさつは、社会生活に必要な公衆道徳を身につけることにもつながるものだから、大切にすべきである。

というように、読み手に対して、自分の主張とその論拠を簡潔に示すようにしたい。

公式

自分の生活体験から問題点を探り、思考を働かせ、社会的問題に結びつけて、主張とその論拠を読み手に示す。



フレームワークに落とし込もう！

今回学習した内容を、小論文のフレームワーク（枠組み）に落とし込んでみよう。

小論文のフレームワークの一例

《序論》主張と論拠の提示

あいさつの大切さに対する自分の意見を生活体験から求め、それに見合う根拠（理由）を加えて、自分の立場を明らかにする。

《本論》考えの展開

意見の具体例を述べるとともに、異論に対する反論を「たしかに〜しかし〜」という形式で示し、論を補強する。

《結論》主張の提示

あいさつについてどのような主張を持っているのかを明示する。

◎ポイント 意見の整合性に注意しよう

序論では「あいさつの大切さ」について肯定的に述べながら、書いている途中で違和感を抱いた結果、最後の結論で序論と食い違う主張となってしまうこともある。

たとえば、次のような答案に気をつけてほしい。

失敗例

あいさつは人間にとつてとても大切な行動の一つだ。なぜなら、あいさつによって人々はコミュニケーションを深めるきっかけを作ることができるからだ。たとえば、私は以前、それまで疎遠にしていた先輩にあいさつしたところ、急に親しくなり、その先輩に日頃の悩みを打ち明けようになった。あいさつは交友範囲を拡大するのだ。

その一方、子供が不用意に大人にあいさつしたことで、誘拐事件に巻き込まれるという恐ろしい事件があった。あいさつにはそうした危険な面もあるから、いつでもだれにとつても大切だというわけにはいかない。あまりに親しげな態度を取ると誤解される。また、あいさつが目上の人に対する配慮を示す形式的な儀礼になってしまっている気もする。

このように、あいさつは大切である場合もあるが、大切とはいえない場合もある。私は、こうしたあいさつの両面性を認識していくべきだと考える。

(一行二〇字詰換算 三三七字)

最終的に「あいさつの両面性を認識していくべき」が結論ならば、最初からその方向を示さないと、説得力が弱くなってしまふ。

こうした失敗を防ぐためには、最初に全体の構想をしつかり練ってから書き始めるのが当然だが、書いている途中でも、何度か序論の意見を確認すべきである。

例題の解答例

あいさつは大切である。なぜなら、人と人の間に生きる人間にとつて最も手軽に互いの存在を認め合う手段として、日本人に限らず人類が長く継続してきた慣習の一つであり、あいさつを欠けば、殺伐として無機質な社会になってしまうと予想できるからである。

たしかに、今日の社会ではあいさつにはメリットよりもデメリットのほうが多いから省略すべきだ、という否定的な意見もある。しかしあいさつは、他人と親しくしたいという、人として自然な願望を伝えるための手段であり、強制力はないものの、実行すればお互いが快くなるといった性質のものである。実際に私には、朝の教室内の何気ないあいさつがきっかけで、それまで親しくなかった級友と深い絆が生まれたという体験がある。

したがって問題は、あいさつを否定せざるを得ない風潮を生んでいる現代の病んだ社会状況にあり、その改善のためにも、さらにあいさつを普及させるべきだと私は考える。

(一行二〇字詰換算 三九九字)

問一〔書く前の準備〕

あなたにとって「価値があるもの」はなんですか。例を一つ挙げてください。

(配点なし)

問二

あなたが問一で挙げた「価値があるもの」には、あなたにとって、なぜ、どのような価値があるのか、論じてください。
制限字数は四〇〇字とします。

(100点)

作文と小論文の違い

構成のヒント

ここまで何度かふれたように、「小論文」は作文と違い、自分の考えを論理的に相手に説明するものである。そして、その論理的説明には、最低限以下の要素が必要である。

・「何について書くのか」(論点) ……与えられた課題について、問い(論点)を用意する。

・「どのように考えるのか」(主張) ……問い(論点)に対する自分の答え⇒意見を述べる。

・「なぜそのように考えるのか」(論拠) ……意見の裏づけとなる理由や根拠を述べる。

今回の課題では、問一の「書く前の準備」で「何について書くのか」の「何」に当たるものを考えてもらった。また、「問い(論点)」についても、問二の設問で「なぜ、どのような価値があるのか」と示してある。つまり今回の課題は、あなたが挙げた「価値があるもの」について、「なぜ価値があるのか」(論拠)と「どのような価値があるのか」(主張)を、四〇〇字以内で論じればよいのである。

とはいうものの、これは小論文の課題なので、しっかりと全体を構成しなければいけない。

初回なので、最初の「序論」で具体例と論点を挙げ、続く「本論」で論拠を述べ、最後の「結論」で主張をする、という三段落構成で論述すればよいだろう(もちろん、四段落構成でもよい)。

論述のヒント

まず、念のために「価値」の辞書的な意味を押さえておこう。

「価値」…その事物がどのくらい役に立つのかの度合い・値打ち

たとえ設問になっていなくても、論述の前に自分なりに、たとえば「価値」存在することが望ましいもの」といった簡単なメモを作るように習慣づけるとよい。

問一の例は、最初は何でもよいので、思いつくままに列挙してみよう。だいたい、次のような例が挙げられるのではないだろうか。

友だち・家族・学校・趣味(ゲーム・釣り・自転車・旅行、など)・
時間・お金・環境・平和……

できれば、他の人が挙げないような個人的な例がよいが、無理をして論述がおかしなものになってしまつては本末転倒である。最初のうちには特に、(一番論述しやすそうな例)を選ぶようにしたい。

続いて、その事例は、あなたにとって、なぜ「価値」があると感じられ、その価値によってあなたはどのようなメリットを得ているのか、を意見として主張する。単に「好きだから・おもしろいから・楽しいから」では小論文にならないことは、すでに学んだはずである。どのような意見とその理由を論じればよいのか、ひたすら考えてほしい。

この設問は、自分自身に迫ることにつながる。

問題

問一 「書く前の準備」

あなたにとって「価値があるもの」はなんですか。例を一つ挙げてください。

(配点なし)

問二

あなたが問一で挙げた「価値があるもの」には、あなたにとって、なぜ、どのような価値があるのか、論じてください。
制限字数は四〇〇字とします。

(100点)

出題のねらい

今回の学習目的は「論理的文章とは何かを知る(作文と小論文の違い)」である。そのために、「あなたにとって価値があるもの」という、作文でも課される一般的なわかりやすいテーマを設定した。

小論文は、「論点」「主張」「論拠」の三点を押さえなければいけない、と何度も述べているが、小論文試験をむずかしく感じる理由の一つは、多くの場合、この三点のすべてを自分で設定して答えなければいけない点にある。

そこで、初回となる今回は、「主張」と「論拠」の考察に注力できるように課題を設定した(ただし、「主張」と「論拠」についての詳しい学習は別の課題で行う。今回は現在の地力で書いてくれれば十分である)。

また、このテーマは、「自分」を客観的に見つめて考える必要のある問題でもある。ふだん、自分の考え方にはどのような傾向があるのか、何にもとづいて考えているのか、などということは、あまり意識しないだろう。今回のテーマに取り組むことで、自分自身の考え方を知り、その考えを客観視する姿勢を学んでほしい。

自分を客観的に見つめて、自分が何をどのように考えているのかを分析することは、小論文を書く際に非常に大切である。小論文はさまざまな問題を通じて、自分の考えを読み手に伝えるためのものだからである。そのためには、書き手は自分の考えがどのようなものか自覚していなければならない。この機会に、自分自身の考え方をしっかりと確認しておこう。今回の作業は、自分が何を幸せと感じるのかに気づかせてくれるはずである。

解答への道筋

1 「作文」と「小論文」の違いを意識する

今回の課題に対して、「小論文」ではなく「作文」になってしまっ
のはどのような文章だろうか。たとえば、次の例を見てほしい。

私にとって価値があると思っっているのは「友だち」だ。なぜな
ら私は友だちと一緒にいる時間が一番充実していると感じるから
だ。

私は中学一年の最初の頃、クラスメイトに話しかけられなくて
困っていた。そのとき、友だちのほうから話しかけてもらったこ
とで、私は学校へ行くことが楽しくなった。

こうした経験から、私は「友だち」こそが自分にとって価値の
あるものであり、これからも大切に関係を築いていきたいと思っ
つ。

この例文では、先の三つの要素がどうなっているだろうか。

* 「何について書くのか」(論点)

↓〈自分にとって価値のあるものは何か「友だち」という、問
い(論点)については設定できている。

* 「どのように考えるのか」(主張)

↓文末の〈これからも友だち関係を大切に築いていきたい〉が
主張に見えるかもしれないが、これはただの希望である。他
者に対して主張しているような意見は、この例文にはない。

* 「なぜそのように考えるのか」(論拠)

↓「友だちと一緒にいる時間が一番充実していると感じるから」
という理由を述べる形式の文が論拠だと思っかもしれないが、
これは単に感想を述べているだけである。そもそもこの例文
には主張らしい主張がないので、その論拠を提示する必要性
も薄いのである。

小論文とは、この例文のように「体験事例」や「感想」を述べるだ
けのものではなく、そこから「意見」を引き出し、その「意見」が他
者にしっかり伝わるように「論拠」をつけて「主張」するものである
ということを、今一度確認しておこう。

2 具体例を検討し、「主張」と「論拠」を考える

説明の便宜上、これまで「問い」↓「主張」↓「論拠」の流れで解
説してきたが、実際に論述する具体例を検討する場合は、「主張」と
「論拠」をセットで考えるケースが大半である。なぜなら、「論拠」の
ない「主張」は小論文として評価されないし、「主張」も「論拠」も
引き出せないような具体例は意味がないからである。このことを前提
に、「主張」と「論拠」を踏まえつつ、取り上げるべき具体例を考え
よう。

問一で今回の記述のテーマ「あなたにとって『価値があるもの』」
を挙げてもらったが、〈自分にとって価値のあるものが、何もイメー
ジできなかった〉という人はいないと思っ。

ただ、「友だち・家族・時間・お金……」などはどれもみな大切な価値があるから、「一つに決められない」と思った人はたくさんいるかもしれない。

そのような場合は、ヒントでも述べたように「一番論述しやすそうな例」、つまり「自分の考えを他者に伝えるために有効な事例」を選ぶことになるが、その判断の基準は「どの事例について述べるのが、自分の考えをより具体的に客観視できるか」である。

今回のテーマは「価値があるもの」なので、「自分が具体的な価値を明確に想定できるもの」がよい。

たとえば先の「友だち」という事例であれば、これまでに友だちによって自分にもたらされたさまざまな具体的なメリットを、次のように想起してみる。

- ・友だちと楽しい話をするので、毎日を笑顔で過ごせる。
- ・財布を忘れたときにお金を借りることができ、昼食を抜かずにすんだ。
- ・悩みを打ち明けたことで、生きる希望がもてた。
- ・いじめられたときに、かばってもらえて不登校を免れた。
- ・お互いに本音で話せたことにより、心にたまったマイナスの感情を解消できた。
- ・好きな相手ができたとき、家族ではなく、友だちにしか相談できなかつた。

こうした事例の中から、他人に主張できそうな意見と、その論拠を引き出すのである。

たとえば、「主張」として

友だちがいれば、一生楽しく過ごせるのである。

を想定すれば、その「論拠」として

友だちと毎日楽しい話をするので、一日一日を笑顔で過ごすことができるから。

を設定することができる。

また、「お金」を具体例に、次のような考え方が想定できる。

- ・お金があれば、衣食住を満たして生活できる。
- ・お金によって人は楽しみを手に入れることができる。
- ・お金でほとんどのものは手に入る。
- ・お金で手に入らないものには、それほどの価値はない。

ここから、

幸せな人生はお金で手に入れられる。

という「主張」を想定でき、その「論拠」としては、

お金は、努力の結果として手に入るものだから。

などを考えることができる。

このように、多くの具体例の中から、自分もともと自信のある「論拠」で他人に「主張」できそうな事例を選んでほしい。

構成を整える

以上で明らかにした小論文に必要な「論点・主張・論拠」を、小論文らしい構成に整えよう。

なお、解答例の例1は一般的な三段落構成とし、例2は先に一般通念を挙げて、後でそれを批判するように、四段落構成とした。

主題と問い(論点)の設定

まず早い段階で、与えられたテーマについて、どのような視点・角度から論述するかを端的に示すのが小論文の定石である。つまり、何を「価値のあるもの」として取り上げて、それをどのような方向から論じるのか、ということを最初に説明する。

解答例は、例1も例2も第一段落でこの論点を示している。例1は「友だち」というごくありがちな事例を取り上げてはいるが、そこに〈価値観の変化の重要性を論点とする〉という少々複雑なヒネリを加えて、独自性を出している。例2は第一段落で、「もともと価値があるものはお金だ」という主張も明示した。

論拠の提示

次に、〈論点に対してどのように考えたのか〉について、考察の過程を論理的に説明する。

適宜、具体例を用いながら説明すると、読み手にとってイメージしやすい文章になるが、今回は四〇〇字という短めの制限字数なので、エピソードの詳細な説明に多くの字数を割くことなく、あなたに最も大きな影響を与えた経験について端的に説明しよう。

解答例の例1では、第二段落で〈友だちについての価値観が変化した経験〉を具体的に説明した。例2では、「お金」という具体例がもつ二つの側面を、第二段落の一般通念と第三段落の独自の解釈に分けて説明している。この第三段落の内容が、例2の本論となっている。

主張の提示

具体例の分析から、自分がどのような問題意識をもつに至ったのかを明示し、さらにそれを他者に訴える形で主張するのが、小論文の定石である。主張は、独りよがりな印象を与えないように、そして他人も納得しやすいように配慮する。

解答例はいずれも、「価値のあるもの」として取り上げた事例から得た問題意識を、他者に提起する形でまとめられている。

例1は第三段落で、友だちについての経験を通じて知った〈自分の価値観を見直すことの大切さ〉を主張した。

例2の第四段落は、第一〜三段落の内容を簡潔にまとめながら、〈人々の努力の結晶として得られるお金に価値がある〉という主張をしている。〈価値のあるものはお金だ〉という主張は、一般的には批判されやすく、認められにくいものだが、第三段落のように論理を組み立てたうえで主張すれば、読み手の採点官はもちろん、多くの人にも納得してもらえはるはずである。

例1

問一 親友

問二

私にとって価値があるのは、「親友」である。なぜなら、私に価値観の変化がもたらす重要な意味を教えてください存在だからである。

以前の私は、「多くの友だちをもつことが大切だ」という価値観に縛られ、いろいろな人と広く浅い友人関係を結んでいた。数えれば百人近くの友だちがいたと思う。しかし、私が将来の夢について真剣に悩んだときに、本当に助けとなるアドバイスをくれたのは、たった一人の友人だった。この親友を得たことよって、他人と深く付き合うとは本音で語り合うことだと気づくことができ、今では、心から信頼できる真の友人のありがたみを感じながら毎日を送っている。

人はある価値観に縛られて、他の価値が見えなくなることがある。私は幸い、友人たちとの経験からそのことを学んだが、私たちは、自分の信じる価値観が正しいかどうかを絶えず疑いながら、自分にとって真に価値があるものは何か検証し続けるべきである。

(一行二〇字詰換算 三九七字)

▲思考の流れ

「価値のあるもの」として「親友」について考える。

↑なぜ

・「親友」は、自分に価値観の変化をもたらしてくれたから。

↑

《論点》「価値のあるもの」として「親友」を取り上げ、
「価値観の変化」という経験について考える。

↑論点にそって具体例を分析する

《論拠》

・「友だち」についての以前の価値観……「多くの友だちがいること」を重視し、広く浅く付き合っていた

↑「真剣に悩んだ時に本当に助けとなった友人は一人だけだった」という経験（変化のきっかけ）

・現在の価値観……本音で語り合え、心から信頼できる親友こそ価値がある

↑論点の深掘り

・価値観の変化を体験することで学んだこと

↑主張化

《主張》「一つの価値観にとらわれず、自分にとって真に価値のあるものは何かを考え直す機会を常にもつべきだ。」

例2

問一 お金

問二

今の日本社会では一般的に、「お金が一番価値のあるものだ」といった考え方は歓迎されないようだ。しかし、私はやはり「もっとも価値があるものはお金だ」と主張したい。

もちろん、「お金があれば買えないものはない」などという言い方をすれば、傲慢な考え方と受け取られてもしかたがないだろう。だが、お金の価値はそこにあるのではない。

私たちが日常生活で使うお金は、人々が働いて得た労働の代価であり、お金は、家族の生活を維持したり、欲しいものを手に入れたりするために得るものである。すなわち、お金の背後には、その代価としての労働と、家族の生活を守ろうとする愛情、そして欲しいものを手に入れるための努力、といった、人間にとって大切な要素が数多く存在するのである。

お金の価値は、単に「ものが買える」ところにあるのではない。お金を得るまでの人々の生活の営みにこそ価値があると知るべきだ。

(一行二〇字詰換算 四〇〇字)

▲思考の流れ

「価値のあるもの」として「お金」について考える。

↑なぜ

・「一番価値があるのはお金」という考え方を嫌う人もいるが、自分はやはりお金には大切な価値があると思うから。

←

《論点》「価値のあるもの」として「お金」を取り上げ、自分の考える「お金の価値」について述べる。

← 論点にそって具体例を考察する

《一般通念》

・「お金があれば何でも買える」という価値観……傲慢な姿勢と思われてもしかたがない。

←

《論拠》自分の考える「お金の価値」

・お金を得るためにすること＝労働

← 何のために労働してお金を得るのか

・自分や家族の生活を守るため＝家族への愛情
・手に入れたいものを得るため＝目標への努力

← 主張化

《主張》お金の「価値」とは、ただ「ものが買える」ということではなく、その背景にある労働や愛情、努力などの生活の営みにある。

深掘り解説

ここでは、毎回のテーマについてもう一步「深掘り」をして考えるポイントを取り上げます。今後の「種」として考えてください。

■ 価値観とは何か

自分ではどう考えてもそれほど価値がないと思えるものに、家族や友だちが多くのお金や時間をつぎ込むのを見て、不思議に思ったことはないだろうか。

たとえば、あふれる本（しかもその大半はまだ開いてもいない）に囲まれているのに、まだ生活費の大半を本の代金につぎ込む人がいる。しかし、当人は本を買うこと自体に大きな価値を見いだしているのです。それで満足している。これは、私とその人との本に対する価値の置き方が異なることから生じた考え方の相違である。

このように、何に価値を見いだすのか、その〈判断の基準〉は人によって違う。そして、〈何に価値があると認めるかに関する考え方〉を「価値観」という。

■ 価値観の相違がもたらすもの

それぞれの価値観は、その人の個性や育った環境、つまり国籍や宗教、文化や習慣が違えば、まったく違ったものになりやすい。

たった二人の間でも、それぞれが何に価値を置くかがまったく異なる場合、自分が価値を見いだしているものを他人に踏みにじられたと感じると、〈価値観の対立〉が起こる。互いに妥協できなければ、決

定的な対立にまで発展してしまうことがある。〈価値観の相違〉は、ときに人々の間に大きな溝を作り出すのである。

それが個人の間の価値観の対立であるならば、その人とき合うのを止めればよい。しかし、宗教や文化の違いは、ときに地域間や国家間に価値観の相違を生み出し、お互いがその価値観を認めずに対立が深まると、紛争や戦争さえ起こりうる。

このように、〈価値観の相違〉はきわめて大きな問題を生み出す可能性があるので、放置しておくわけにはいけないのである。

■ 価値観の衝突を避けるために

では、どうしたら異なる価値観を受け入れられるだろうか。

まずは、相手の価値観を理解しようとする姿勢が大切である。それには、相手がそのような価値観をもつに至った、歴史的・文化的な経緯や背景まで含めて知る必要がある。

それと同時に、自分の価値観を相手にわかってもらう努力が大切である。そのためには、相手が理解しやすいように説明しなくてはならないし、自分で自身の価値観の分析ができなければならない。

このようにして、お互いに理解し合う努力が必要である。また、たとえ相手の価値観そのものを理解できなかったとしても、異なる価値観が世の中に存在していることだけは理解するべきであるし、それだけは理解させる必要がある。

誰もが自分の価値観を唯一絶対のもの信じ、それだけが正しいと思ってしまう。あちらこちらで争いが起き、社会は立ち行かなくなってしまう。すべての人類はそれを忘れてはならない。

筆者の主張が最も明確に示された一文に正しく注目できている。

問一

はじめは「情報社会に」とあり、
「題である。」

要素	10
表現	
表記	
得点	10 / 10

「〇〇の写真」のように明確にしたほうがよい。

「知らないうちに」という部分はここではない方がよい。

問二

友人と撮った写真が知らないうちにSNS上に載っていること。

要素	55
表現	
表記	-1
得点	54 / 90

問三

一文が長いために、あなたの意図が正確に伝わりにくい。一文は六十字程度にまとめるが良い。

-2 ②で

内容がながっているので段落変え不要。⑩までを序論としよう。

-1 ②で

「切断過剰」の状態になると精神的孤立や引きこもりなどの問題が生じるとしているが、やや説明不足のため、説得力に欠ける。

なぜ切断過剰が精神的孤立や引きこもりを引き起こすか
・その背景にはどのような問題があるのか
・解決するためにはどうすれば良いのか
などを、もう一歩踏み込んで考察することで、説得力を出す。

-5 ②で

(一) 部で序論の内容に戻ってしまっているため、論が深まっていけない印象を与えており、あなたの主張も欠落している。

個々の生活の細部がつかない規模と強度でつながっている「接続過剰」でもなく、その逆の「切断過剰」でもない状況を現在の情報社会において、課題である。どうやって解決して共生するかが課題である。なぜなら、情報の現代において、接続と切断のバランスをとるのが非常に困難なところがある。個人の問題の原因は、SNSの多発による「炎上」による果敢に誹謗中傷にあつて「炎上」による「SNSを通じた発信された行動」が「SNSを通じて不特定多数に発信された結果」である。これは「接続過剰」による問題が多発すると、前の生活に戻ることで問題を解決しようとする人も出てくる。しかし、このような「現代社会に極端なものであり、情報化の進んだ現代社会において、精神的な孤独や引きこもりなど、異なる問題を生んでしまっている。また、その理由から課題にとりかかろうとして、接続と切断のバランスを上手にとることが大切であり、その理由から課題の主張に賛成する。

課題文の内容をまとめた上で、「賛成だ」というあなたの立場を明確に示せており大変良いが、論点が不明瞭。

-5 ①で

適切な例を挙げながら考察できている点は良いが、やや抽象的で、一般的によく指摘されている内容にとどまるため、独自性の面では物足りない。

どこかで見聞きしてきたことをそのまま用いているのではなく、あなたの生活体験から得た知識であることを明示できると独自性と説得力が出る。
あなたの身近なところで生じた「接続過剰」の問題や、新聞で見聞きした情報など、より具体的な事例をとりあげられないか、再考してみよう。

-10 ①で

「遮」-1 ②で

要素別得点	
① テーマ(主題)の設定	25 / 40
② 論の展開における考察	30 / 50

論点(「は……か」)、論拠(「具体的」「すべき」)の三要素は意識的にそろえよう。この段落では、「接続」と「切断」のバランスを取るために、あなたが必要だと考えている「主張」を述べるようにしましょう。

② 谷折り

① 山折り

(※解答欄は以上です。裏面にある「答案感想欄」にもご記入ください。)